

継産乳牛の導入時にグラム陽性桿菌による 壊疽性乳房炎を発症した一例

NOSAIえひめ 南予家畜診療所
久枝 啓一

症例の概要

- ・2013年5月11日に廃業したSi市S農家からSa市K農家導入する

S農家：県内一位の個体乳量を搾乳している(12000kg/頭/年)
飼料給仕方法は配合4回/日、配合飼料は乳量の1/2
粗飼料：購入オーツヘイを細断
搾乳頭数19頭、タイストール、敷料：モミガラ、対尻
バケツ搾乳

K農家：個体乳量8000kg/頭/年、稲わらのホールクロップサイレージ
購入発酵TMR、配合飼料：乳量の1/3
搾乳頭数：36頭、タイストール、牛床マット、対尻、PDD多発
パイプラインミルクカー

- ・6月17日朝6時頃分娩する

- ・同日、午後6時頃食欲廃絶となるため家畜診療所に往診依頼

初診時の所見

2013/6/17 pm6:00

(症状)

体温:39.7°C、心拍数:96回/分、呼吸数:24回/分

食欲廃絶、第一胃運動停止、起立正常、胎盤停滞なし、

SS:5、LS:4、CS:9

尿検査:ケトン体(-)、他著変なし

血液検査:Ht値:40.3%、WBC:2400/ μ l、PLT: 30.4×10^4 / μ l、

AST:335IU/l、GGT:102IU/l、Ca:7.8mg/dl、BUN19mg/dl

乳汁検査:PLテストで左後±

(治療)

CEZ4g+生食1L 一時間点滴

水性デキサメサゾン10mL

左後乳房にCEZ-LC4g注入

第2病日の所見

2013/6/18 am10:00

(症状)

体温:39.8°C、心拍数:120回/分、呼吸数:88回/分

沈うつ、食欲廃絶、第一胃運動停止、起立不能、

SS:6、LS:4、CS:10

左後乳房:紫変、赤褐色乳汁

乳汁細菌学的検査:G陽性桿菌

ABPC:R, PC:R, CEZ:R, KM:S, OTC:I, OBFX:S

2013/6/19 am 6:00 死亡









30

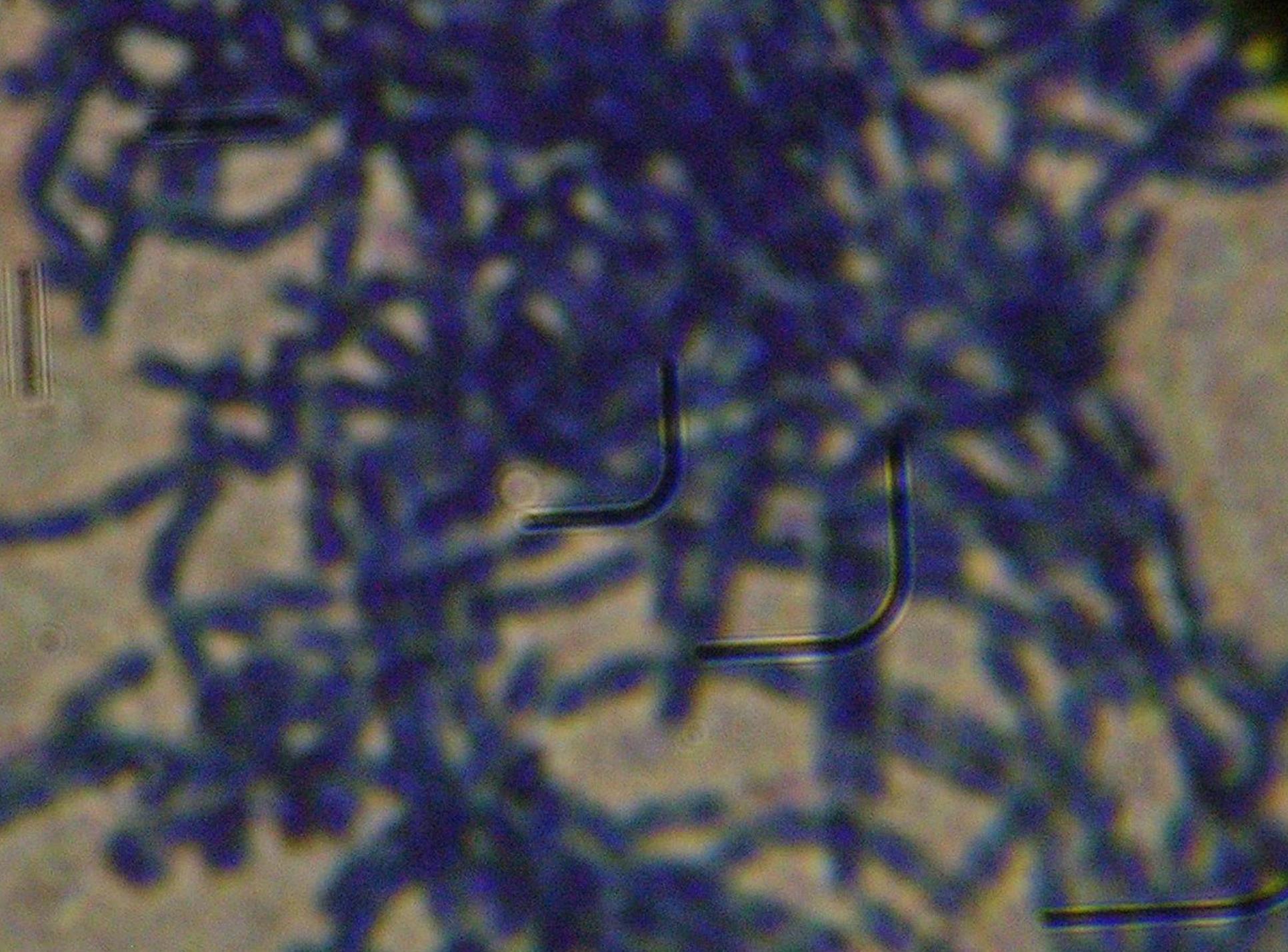
OBFX

CZ
30

P
10

30
T

30



考察

飼料給与条件の急変

環境の変化

分娩



免疫力の低下



日和見感染



壊疽性乳房炎

今後の対策

- 導入時のストレスの回避（飼料の馴致、敷料衛生）
- ストレス軽減のための対策（生菌剤の添加）
- ミネラル、ビタミン剤の添加
- 導入時期（季節）に注意
- 導入前の農家の飼養状況を考慮し導入の可否決定

今後の課題

- 個体におけるストレスの指標を明らかにする
- 導入後3日後あるいは7日後における**ストレス指標テスト**
リンパ球の幼弱化、血糖値、血清中コルチゾル濃度、
白血球数、白血球百分比、糞便の状況、一般症状etc
- ストレスに対する対策
換気、衛生管理、畜舎消毒
飼料の馴し給与、添加剤、生菌剤etc
- これらをルーチン化することで今回の事故を
回避できたのでは？